

2019年度公開セミナー「アラビア半島の歴史・文化・社会」

第4回

# 外国人労働者への風当たりが強まるクウェート

講師：近藤 重人  
(日本エネルギー経済研究所)



写真出所: Kuwait Local.com

クウェートでは人口の約3分の2が外国人労働者であり、彼らが同国経済の重要な担い手となってきた。しかしながら、特に2014年の原油価格の低迷以降、国民議会を中心に、外国人労働者の雇用を制限すべきであるという声が一段と強まっている。本報告では、こうした動きの背景と今後の展望について考察する。

2019年7月6日(土)

16:00~17:30

駒場キャンパス18号館4階

コラボレーションルーム3

入場無料、事前申込不要

問い合わせ先/ Contact :

東京大学中東地域研究センター (UTCMES)

03-5465-7724/info@utcmes.c.u-tokyo.ac.jp

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/UTCMES>



東京大学中東地域研究センター

UTCMES

The University of Tokyo Centre for Middle Eastern Studies

# アラビア半島の 歴史・文化・社会

全13回(予定)

古くから人類が居住する土地として、イスラーム発祥の地として、インド洋貿易をはじめとする東西交易の中継地として、また現代社会における経済・金融活動のセンターとして、さらには中東や国際政治における無視できない主体あるいは対象として、アラビア半島とそこにある諸国家は注目を集めています。

本公開セミナーでは、各専門分野で活躍する研究者を講師に招き、アラビア半島の過去と現在を様々な角度からとらえます。そして中東地域におけるアラビア半島諸国の特徴や、アラビア半島諸国と日本の関わりなどについて、考えていきます。



サウジアラビアのジッダ、2008年